



# 能古博物館だより



【馬(復刻)】 坂本繁二郎(1882-1969)1956文化勲章受章  
305×365 リトグラフ・紙  
「この版画は孫で画商をしている曉彦氏が復刻したものだ」(谷口)

## 谷口コレクション特集

### ある美術記者の軌跡『谷口コレクション展』

#### ～戦後福岡のベルエポック～

本館所蔵の通称「谷口コレクション」による特別展を開催します。西日本新聞社の美術記者谷口治達氏が1960年から80年代にかけて取材した美術家たちとの記念碑的な作品集です。

そこには谷口氏本人が「ふりかえればよき時代」と述べた戦後福岡のベルエポックが

ありました。言い換えればみんな燃えていたのです。特別展は美術家の皆さんを出身地や主に制作活動をした拠点を基に、地域別に3回に分けて展示します。谷口氏は2013年2月、病気のため八〇歳で亡くなりました。

#### △会期▽

◇第1部 3月21日(金)～6月29日(日)◇

#### ▽谷口と筑後地域の作家たち

青沼茂男、池松末人、大津英敏、奥村日出雄、坂宗二、小柳竜児、古賀耕児、桜井孝身、坂本繁二郎、下川都二朗、田崎廣助、津留崎晴男、友添泰典、松本英一郎、光行洋子「いずれも敬称略」

◇第2部 7月4日(金)～9月28日(日)◇

#### ▽谷口と筑豊・北九州地域及び県外の作家たち

井上自助、小野茂明、江田茂人、大内田茂士、大田歳、小谷修一、多賀谷伊徳、千原稔、野見山曉治、織田廣喜 △県外▽宇治山哲平、坂本善三、長野静司、許山孝一、棟方志功、山下純司「いずれも敬称略」

◇第3部 10月3日(金)～12月21日(日)◇

#### ▽谷口と福岡地域の作家たち

足達襄、赤星孝、石橋健作、石橋泰幸、伊藤研之、井上寛信、宇田川宣人、大場正男、大村清隆、オチ・オサム、加治亜委子、河津嘉三、菊畑茂久馬、田副正武、熊代駿、木下新、小林恒火子、谷口利夫、竹岡羊子、田部光子、樋口治平、濱田隆志、舟木富治、古川吉重、安恒春一、山田栄一「いずれも敬称略」

※開館日は金、土、日、祝日です。但し4月25日～5月25日の間と10月1日～11月3日の間は、通し開催いたします(月曜日定休・祝祭日の場合は翌火曜日に変更)。詳しくは当館まで。  
<料金>通常の入館料をお支払いください。全館の展示をご覧になれます。

# 「美しき時代― 谷口コレクション」

芸術作品は人と風土を写しだす鏡であり、時代の証言者と言える。

能古博物館の谷口コレクションは正に谷口美術記者を核として集った1960代から1980年代の福岡のみならず熱気を直に伝えてくれる数々の美術家達の貴重な作品が収められている。

その時代は「画布の海へ」と題した谷口コレクション展図録に、振り返れば胸が高まるような高揚感で満たされた、まさによき時代と自らが述懐しているように、谷口氏にとって第2の青春、美しき時代―ベル・エポックであった。

私は福岡に1971年に赴任したので、1960年代の谷口氏のことには伝聞しか知らない。その頃、私は1964年の東京オリンピックから1970年の大阪万国博覧会後までの7年間は芸大生生活を送り、学生運動が全盛の時期であったが、高度経済成長により国民総生産、GNPが世界2位の経済大国になり、東京の街も人も日毎に活気に満ちていく姿を感じながら過ごしていた。

今振り返ると丁度、工業化社会から情報化社会への移行期であり、芸術の分野でも深く豊かに醸成された個性により普遍的な芸術を追究してきたモダニズムから、その考えとは対立する、他者や社会との関係から生ずる思いや情緒、考えなどの多様・多元的な世界の表現を追究するポストモダニズムへの時代へ大転換しようとする時期であった。

我が国の美術界が欧米からのこれらの相反する新旧の芸術思想のはざまに揺れ動き、それ等の主張



宇田川 宣人

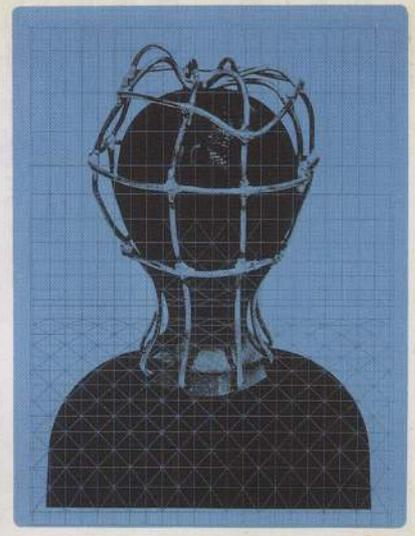
が衝突し、葛藤している真只中の時期で、新宿や、銀座、室町などの現代画廊では針生、中原、東野、瀬木などといった現代美術評論家がひしめくなか、ポップアートやオップアート、キネティックアート、色面絵画、コンセプチュアルアートなどがごちゃ混ぜになり、混沌として花盛りであったことを思い出す。

その頃、九州に在った谷口氏は三池争議の騒然とした社会を背景に美術記者としての取材活動を開始し、福岡で爆発し、東京にまで新芸術を携えて、ゲリラ的になぐり込みをかけた九州派の運動に心酔し、深野治、田中幸人記者達と共に仲間として議論に参加し、一緒に酒を飲み、溢れ出る血潮に心の底からエールを送りながら、第二の青春を謳歌していたと思われる。その証には私の知る限りでも、菊畑茂久馬氏、桜井孝身氏、田部光子氏、オチ・オサム氏など、当時の大スター達の作品がコレクションを燦然と輝かせている。

また、私は福岡に来る1年前、1970年に東京の銀座のデパートで坂本繁二郎の追悼展を見て大きな感動を受け、九州の風土に憧れをもったことを覚えていたが、谷口氏は既に1966年4月から筑後に通い、晩年の坂本繁二郎を取材し、55回の聞き書きシリーズを新聞に連載し、翌68年に「坂本繁二郎の道」を出版している。それは青木繁など画家たちとの交遊録を通して、坂本繁二郎像を鮮明に浮き彫りにした伝記として、今でも坂本繁二郎の人と芸術を理解するための定本として貴重な価値をもつものである。谷口氏は後の著書「青木繁・坂本繁二郎」



[Hana] 田部光子 たべみつこ  
1989年 M100号 970×1620 油彩・wood board



[天動説] 菊畑茂久馬 きくはたもくま  
F6号 398×298 シルクスクリーン・紙

(コレクションの一部を紹介します)

の中で画家の盟友関係を比較して黒田清輝、久米桂一郎が華やかでエリート的だったことに比べ、青木・坂本の歩みは貧しく苦難に満ちていたと述べ、情熱や才能ゆえに起こる、早熟の天才・青木の悲劇的な人生や、孤高で誇り高く晩成だった坂本の生き方に、深い共感と尊敬の眼差しを向けている。

谷口氏はこの両極端な二人の生き様に折々の自分の理想を重ね合わせるとともに、福岡でもがき苦しみながら生きる美術家達の課題を我事のように一緒に考えて考え背中をそっと押し、暖かい支援の手を差し述べてきたような気がする。

谷口コレクシヨンの作家達は、特別なイズムや会派や世代でくくられるものではないが、強いていえば、谷口氏がその時代の最先端の芸術を切り開く目的や、九州の豊かな芸術風土をアピールするための展覧会を企画し、それに参加した美術家の作品がコレクシヨンになっていることがわかる。

例えば前者では、60年代からの九州現代美術の動向展と、その後の九州現代美術展などで、九州派だった美術家のほか、田副正武氏や引頭勘治氏、石橋健作氏など先端的な芸術を試みる美術家達の作品が混在している。そこには早くもフェミニズムアーティストやポストモダンの萌芽が見てとれ、当時の最先端の芸術的動向が確認でき興味深い。

また後者では、80年代から福岡の日動画廊を会場に、安井賞展や明日への具象展、昭和会賞展など



で全国的に活躍する画家を束ねて、コーラル展と西風会を連続して企画した。そこには友添泰典氏に、古賀耕児氏、光行洋子氏、また私などの名前もものぞく。

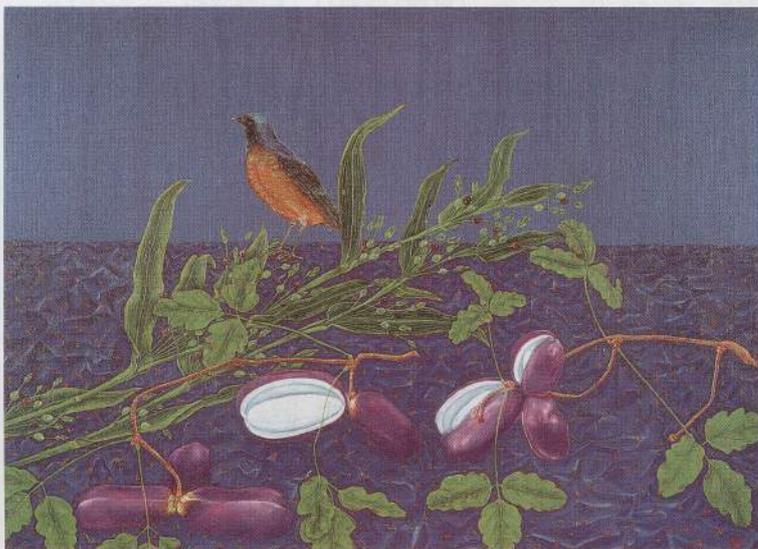
更に、谷口氏は欧米やアジア、東京を視野に入れながら、地元での市展や県展、氏が館長を務めた田川市美術館主催の英展に心を砕き、有名、無名を問わず分け隔てることなく、多くの美術家と交流していた。風土別に見てみると、筑後では坂本繁二郎氏、大津英敏氏、松本英一郎氏、田崎廣助氏など、筑豊では野見山暁治氏、織田廣喜氏など大家が並ぶ。また白砂青松の筑前では足達襄氏、赤星孝氏、伊藤研之氏、大内田茂士氏、舟木富治氏、古川吉重氏など、更に北九州方面では、多賀谷伊徳氏、千原稔氏など、周知の画家だけひろいあげても国際的であり、多士済々。谷口氏は風土を代表する画家達に愛されて、美術記者活動を送っていたことが分かる。

その縦横無尽に広がる、谷口氏を中心とする美術家の輪の大きさと濃密な絆に、改めて感嘆せざるを得ない。

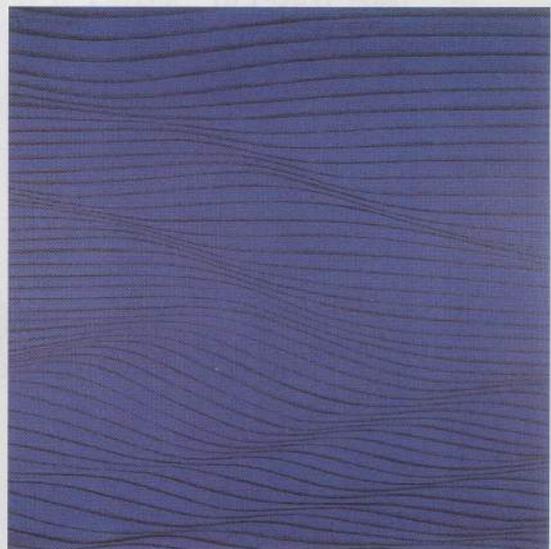
△筆者略歴▽ うだがわ のりと 1944年横浜市生まれ。1970年東京芸術大学大学院修了(小磯良平研究室。九州産業大学長(現・教授。ペンシルベニア大学各員芸術家(米)、サザンクロス大学各員教授(豪)、国民文化祭アジア美術企画委員長、福岡アジア文化賞委員等歴任。現在「福岡県文化団体連合会理事長、九州文化協会副会長」アジア美術家連盟日本委員会代表。

著書(共)に「美術」(日本文教出版)「美術の学習」(吉野教育図書出版等)展覧会「国際青年美術家展、安井賞展、現代日本美術展、アジア国際美術展、アートマイアミ等、個展(NY、シドニー等で19回)、福岡市文化賞、青木秀大賞等受賞。

△写真説明▽ 第4回上野彦馬賞「九州産業大学フォトコンテスト」(2000年)の懇親会会場で、谷口治達九州産業大学美術館長(中央)と受賞者。同賞は21世紀に羽ばたく若手の発掘・育成を目的に九産大の建学40周年を記念して創設された。高校生・中学生部門もある。第4回は全国から2412名の応募があった。



【小鳥とあけび】 友添泰典 ともぞえやすのり  
P8号 333×453 油彩・カンバス



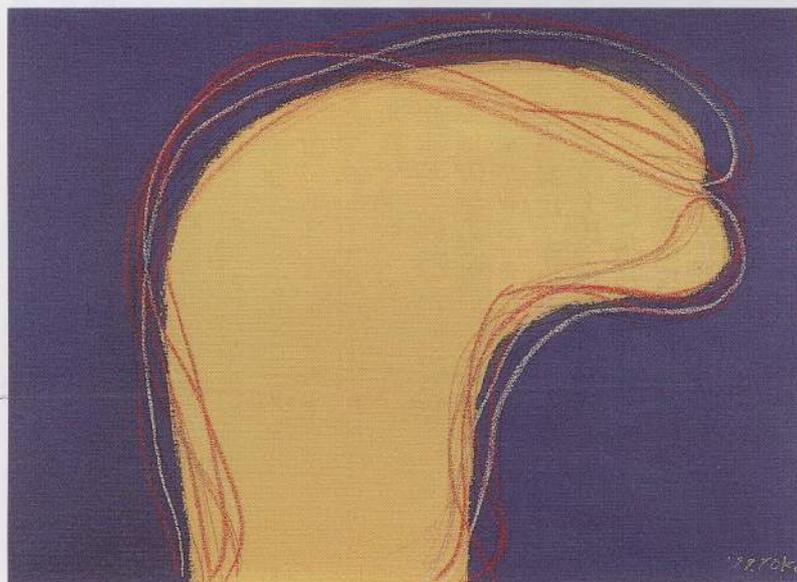
【波形-89-A】 田副正武 たぞえまさたけ  
F100号菱 1617×1619 油彩・カンバス



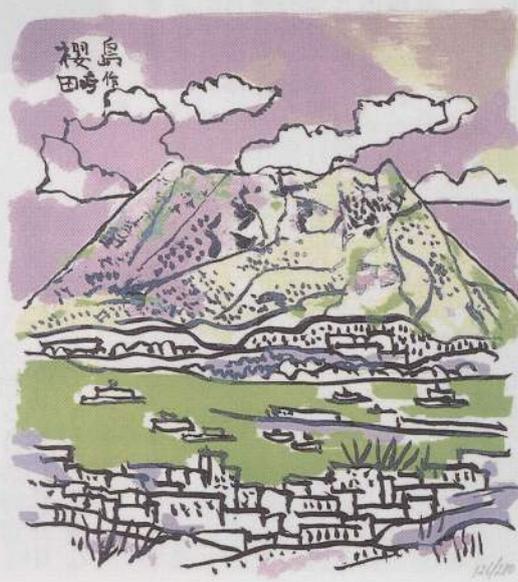
【パリ風景】 古賀耕児 こがこうじ  
F15号 530×651 油彩・カンバス



【顔】 宇田川宣人 うだがわのりと  
2000年 198×165 版画



【風景 W98-20】 光行洋子 みつゆきようこ  
1998年 600×900 水彩



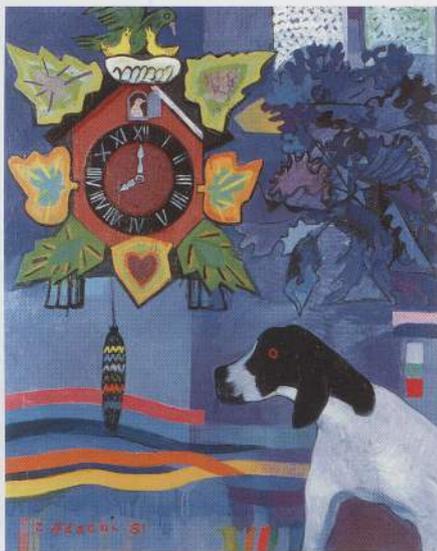
【桜島(複製)】 田崎廣助 たさきひろすけ  
377×346 リトグラフ・紙



【ポン ロワイヤル】 大津英敏 おおつえいびん  
F4号変 240×308 エッチング・紙



【パリ風景】 野見山曉治 のみやまぎょうじ  
1963年 P8号 312×459 水彩・紙



**[ある時間帯]** 足達襄 あだちじょう  
1981年 F30号 907×725 油彩・カンバス



**[パリ郊外]** 赤星孝 あかほしたかし  
1962年 326×480 水彩・紙



**[遠い風景]** 千原稔 ちはらみのる  
2001年 F6号 油彩



**[青空太陽の唄A]** 多賀谷伊徳 たがやいとく  
M15号変 630×473 リトグラフ(手彩色)・紙

※谷口治達氏略歴 たにぐち はるみち 1932年  
広島市生まれ。1956年東京大学国文学科卒、西日本  
新聞社入社、主として文化畑を歩き、文化部長、論説委  
員等を経て1988年、55歳で退社。九州造形短大教授  
となる。1991年田川市美術館長兼務。1995年九  
州造形短大専務、2002年九州産業大学美術館  
長兼務、2007年3月退任。(社)福岡県美術協会特別  
顧問。2013年2月6日逝去。享年80歳。

著書に「坂本繁二郎の道」、「西日本民俗博物史上・下」、  
「彫心澄明 富永朝堂問書」、「俳諧求道 小原菁々子問  
書」、「青木繁、坂本繁二郎」ほか。

※「谷口コレクション」 1991年4月、谷口氏は油彩、  
水彩、版画など70余点の美術品を能古博物館に寄贈し  
た。当館は「谷口コレクション」と命名。2002年5月28  
日から6日間、福岡市・天神のアクロス福岡・交流ギヤ  
ラリーで「画布(カンヴァス)の海へ 1960〜80年代福  
岡 美術家たち展」を開催した。

谷口氏は同展の図録に一文を寄せ「購入したのも一部  
あるが、大部分はそれぞれの作家が私への好意で記念に  
下さったものである。しかし私にわざわざ下さったもの、  
いい加減な作品はない。どれもそれぞれに見応えのある  
作品ばかりである。」と記した。



**[博覧会]** 伊藤研之 いたうけんし  
F0号 192×135 水彩・紙

## 今夏、能古島を主舞台に

## 映画『なつやすみの巨匠』を自主制作

福岡育ちの脚本家・入江真吾・37歳

テレビの刑事ドラマ『相棒』シリーズや映画『百夜行』(原作東野圭吾、主演・堀北真希、高良健吾)の脚本家で福岡市出身の入江信吾さん(37歳)が、やはり30代の若手監督中島良さん(30歳)と組んで、能古島を主舞台に映画『なつやすみの巨匠』(上映時間100分)を今夏、自主制作する。

全編を能古島と福岡市内ロケで作る、キャストは原則、福岡在住もしくは出身者を起用、セリフはオール博多弁と、「リアルで楽しい」が当地映画(入江さん)を目指す。入江さんは修猷館高在学中に映画制作部を立ち上げ、独学で脚本を書き、カメラワーク、編集などの技術を身につけた。

主役は能古島に住む14歳の少年と混血の美少女。少年は漁師の父親からもらった中古のビデオカメラで少女を追い、監督気取りで映像を撮り続ける。少女の父親は不法滞在のブラジル人、母親は日本人。父親の不正が発覚、介在した就労斡旋ブローカーが警察の追求を恐れ、少女を人質に取ろうとして……。

入江さんと中島さんは製作に必要な最低資金400万円を2人で手当てした。その上で個人や企業に寄付・協賛を仰ぐ。

「必ず作り上げることを前提に、さらなるクオリティアップのため寄付・協賛を募るといいうのが、我々の流儀であり誠意だと捉えていただき

たい。プロのスタッフを雇い、実力のあるキャストで撮影に臨むためには最低でも1千万円必要。寄付・協賛をよろしく願います。」(企画書)

完成後はまず福岡市で先行上映。平行して国内外の映画祭に出品。実績を積んだ後、全国上映を目指す。

## プロフィール



入江 信吾(いりえ しんご)  
1976年生まれ。福岡市早良区出身。県立修猷館高、神戸大学経済学部卒。日本脚本家連盟員。

映像制作集団アイリス・イン代表。テレビ朝日系『相棒 Season4』第7話「波紋」でドラマ脚本家デビュー。大胆かつ緻密な構成力と繊細な表現力を併せ持つ作風が幅広い層から支持を集める。近年、アニメ分野にも進出した。独身。



中島 良(なかじま りょう)  
1983年、山梨県生まれ。筑波大学中退。

長編自主映画『俺たちの世界』で第29回びあフィルムフェスティバル審査員特別賞・エンターテインメント賞・技術賞の3冠を受賞。第7回ニューヨーク・アジア映画祭で最優秀新人作品賞を受賞し、バンク・バー国際映画祭など世界7カ国の映画祭に招待上映される。2009年、映画『RISE UP』(主演・林遣都、山下リオ)で脚本の入江信吾とタッグを組み商業映画デビュー。撮影から編集、CG合成までひとりこなす。独身。

## 小谷修一さん遺作展

兄戦死の記憶残すカンバス

5月の連休・市美術館で

能古島のアトリエで40年余り制作にいそしんだ洋画家故小谷修一さんの遺作展が4月29日～5月6日の8日間、福岡市美術館で開かれる。小谷さんは2012(平成24)年11月3日、80歳の誕生日に亡くなった。

画集制作の撮影が1月18日アトリエで行われ、小谷画伯が1949(昭和24)年の県展に初出品、最年少の17歳で入選(福岡市長賞)した『風景』(30号)「写真」など約60点を撮影した。

筑豊育ちの小谷画伯は兄3人を戦争で失った。小谷少年は兄たちを戦地に見送った際に掲げた「祝出征」の幟(のぼり)をカンバス代わりに初入選作を描いた。

寿子夫人(76歳)は「この年の審査員は坂本繁二郎さんでした。最初で最後だったそうです。敗戦直後の物資不足の時代でしたが、兄を3人も戦争で亡くした小谷がどのような想いで幟をカンバスにしたのか。絵は静かな森の風景なので、鑑賞する人によって印象はさまざまでしょう」と話した。



小谷画伯は市内中央区の

自宅から弁当を持って、対

岸に糸島半島を望むアトリエに通った。四季さまざまの

海を描いた50号から100

号の作品が多数残る。当館

は30号の油彩『雲のパンセ』

(谷口コレクション)を所蔵。

今年夏頃、公開の予定だ。



# 『能古島未来フォーラム2014』

## 活発な意見交換

### 島内外から106人集まる



能古島の将来像を話し合う『能古島未来フォーラム2014』(能古島未来づくり協議会主催)が2月9日能古公民館で開かれ、島内外から106人が集まった。

冒頭の挨拶で協議会の前田高男会長と西方俊司副会長は「3年前から毎月研究会を開いて準備してきた。(今日は)島の(新しい)幕開けとも言うべき日。腹を割って話し合ってほしい」と期待を込めた。

進行役は福津市津屋崎で活動する40代の男性が務めた。第1部のトークセッション「ローカルの未来・能古島の未来」では各地の実情が紹介された。山口県阿武町からゲスト参加した男性は1949(昭和24)年生まれ。33歳でサラリーマンをやめ東京から帰郷。漁師の傍ら民宿を経営する。町内の空き家対策に腐心した経験を話した。

兵庫県の淡路島でNPO法人「淡路島アートセンター」を運営する女性は、アーティストの拠点を作って定住人口増を狙

う。「パソコンがあれば都心に住まなくてもアーティストの仕事は可能だ。むしろ静かな環境が喜ばれる」と話した。

総合基本計画(平成5年策定)を推進した中村久作さんが出席、過去の話し合いの実情を説明した。

第2部では全員参加のワールドカフェ「私たちの島の未来は？」を開いた。「10年後にどんな能古島になってほしいですか」をテーマに、3、4人が同じテーブルでそれぞれの意見を述べた後、1人を残して他のテーブルに移動するゲーム感覚の話し合い。顔ぶれを変えて自分の考えを述べることで、意見の循環を図った。

減る一方の人口対策では、「橋を架(か)けるべき」、「農業の再生を」などの意見が聞かれた。



# 「義を見てせざるは勇なきなり」

## 川原尚行さん(ロシナンテス)の講演

### スーダンに病院を、東北に笑顔を



特定非営利活動法人ロシナンテスの川原尚行さん(48歳)が2月8日、福岡市内で開かれた国際ソロプチミスト福岡一南(佐田真知子会長)の認証25周年記念講演会に招かれ、「ひとりはおんなの為にみんはひとり」の為にスーダンに病院を、東北に笑顔を」と題し、北九州弁混じりの独特の口調で「義を見てせざるは勇なきなり」と熱く語った。

果敢に相手の懐に飛び込んでいく川原流の奥義がよどみなく披露されるなかで、聴衆がどよめいたのは、スーダンの役人を北九州市小倉北区の自宅に招き、両親、妻、子ども3人の家族総出でもてなすスナップ写真がスクリーンに映し出された場面。客人は川原さんがスパイの疑いで6日間拘留された際、厳しく取り調べた役人だった。「こいつにはひどい目にあつたが、疑いが二心晴れ、日本に行きたいと言うので自宅に招いた」とさりげない。川原さんを支える家族の絆が印象的だった。

△注▽「ひとりはおんなの為にみんはひとり」は世界中のラグーマンの合い言葉。川原さんは小倉高校、九州大学のラグビー部主将。

『ワンコイン募金』復活 当館では友の会の有志を中心に新老人の会福岡支部(原寛世話人代表・会員約370人)の協力のもとロシナンテス支援の『ワンコイン募金』に取り組んできた。3年前の募金総額は約100万円に達した。昨年は中断したが、今年は既に各方面に働きかけており、2月22日の新老人の会福岡支部フォーラム・日野原重明講演会(エルガーホール)でもロビーで職員らが協力を呼びかけた。

この日、集まったワンコインの総額は8万1千92円。推定で150人余りの方々が「1円玉から500円玉」を投じた。千円札も30枚を数えた。秋頃までにとりまとめ、ロシナンテスに贈呈する。



# 以心伝心

いしんでんしん

・少しワルソウやったが：

○：友の会の会員で福岡県セーリング連盟副会長の秋山雄治さん(75歳)が昨年秋の叙勲で旭日雙光章を受けた。日本と福岡のヨット界に貢献した長年の功績が認められた。

国体のヨット競技に9回連続して出場した猛者。オークランドへ福岡間の外洋レースを発案、世界ユース選手権など多くの国際大会を博多湾に誘致した。

能古博物館の展示『博多湾物語』のテーマのひとつ「牛島龍介青年の単独太平洋往復航海」も40数年前に秋山さんから地元ヨットマンが後押しして実現した。

福岡市内で2月1日に開かれた祝賀会には220人が集まり、秋山さんの修猷館高校の先輩で東京五輪代表の棚町三郎さんや後輩の北京五輪代表石橋顯さんも出席した。祝辞を述べた同級生の出光芳秀さん(当館の個人協賛会員)は「高校時代のアキヤマは少しワルソウやったが、包容力があつた」と若き日の秘話を披露した。

## ・島に渡った古茶碗

○：70号で紹介した聖福寺(福岡市博多区)所有の「非現業組合連合会 聖福病院」印のある古茶碗が昨年暮れ、同寺から能古博物館に寄贈された。

細川白峰住職の格別の好意で島に渡った小さな茶碗は、別館2階の常設展示『海外引き揚



げの記憶』の貴重な資料として、さっそく展示された。

## 聖福病院

は現在の浜の町病院(福岡市中央区)、千早病院(福岡市東区)の母体。院長を務めた緒方龍医師(元清津日赤病院長)ら朝鮮半島から引き揚げてきた医師と看護婦数十人が、苦勞して持ち帰った医薬品、医療器具をもとに聖福寺内に病院を開設する物語は感動的だ。

## ・コーヒーの友に砂糖菓子

○：喫茶コーナーのコーヒーは井戸水を沸かし挽きたての豆をドリッップする。営業ではないのでお値段はフリー。300円前後を「寄付」として頂いている。幸い味の評判はいい。

その一杯に昨年から館庭で採れた「つくし」や「あんず」、能古特産の「みかん」で作った砂糖菓子を添えている。「数量に限りがありますが、ぜひ島の自然を味わって下さい。コーヒーだけの入館も歓迎です」と手作りした女性職員。



## 亀井南冥没後200年

### 秋に回顧の行事

本館の常設展示を代表する江戸期の儒学者亀井南冥が死去して今年には200年になる。南冥は1743(寛保3)年8月25日、筑前國早良郡姪浜村に生まれた。当時の姪浜は唐津街道が通過する半農半漁の村で時代は徳川の中期。將軍は八代吉宗、福岡藩主は六代黒田継高だった。

数々の業績を築き波乱の生涯を送った南冥は1814(文化11)年3月2日、現在の樋井川下流(福岡市早良区)の百道林の自宅が火災にあい煙にまかれて死去した。72歳だった。放火自殺などの説もあるが、今日では失火による窒息死説が有力だ。

当館では南冥の業績を回顧する行事を今秋、実施する。詳細は次号の館便りなどお知らせします。

## 図録とポストカードおわけします



『谷口コレクション展』

開催を記念して図録『西布(カンバス)の海へ』1960年〜80年代福岡・美術家たち展・谷口コレクション』(2

002年5月・西日本新聞社発行)とポストカード(8枚一組)を希望者におわけします。いずれも12年前に制作しましたが、保存状態は良く新品同様です。価格は図録800円。ポストカード400円。見本を会場内に展示しています。詳しくは係にお尋ねください。能古博物館







### アクセス

#### 西鉄バス

- ・JR博多駅 博多口正面Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行:約50分
- ・天神 三越前1Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行:約30分

#### 市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

- ・西鉄バス姪浜駅 北口  
98番 能古渡船場行:約12分
- ・タクシー:約 8分

#### 市営渡船(フェリー)

- ・姪浜-能古島間:約10分
- 能古島渡船場より博物館まで
- ・徒歩:約10分
- ・アイランドパーク行き西鉄バス停  
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

#### 問合せ

姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709  
能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

#### 開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としていたす。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

#### 開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

入館料/大人400円・高校生以下無料  
※団体20名以上2割引

能古・姪浜航路時刻表

	能古 発	姪の浜 発
1	◎05:00	◎05:15
2	06:00	06:15
3	06:30	06:45
4	07:00	07:15
5	07:30	07:45
6	08:00	08:15
7	09:00	09:15
8	10:00	10:15
9	11:00	11:15
10	12:00	12:15
11	13:00	13:15
12	14:00	14:15
13	15:00	15:15
14	16:00	16:15
15	17:00	17:15
16	17:30	17:45
17	18:00	18:15
18	18:30	18:45
19	19:30	19:45
20	20:15	20:30
21	20:45	21:00
22	21:45	22:00
23	◎22:45	◎23:00

◎印は日祝日運休 2013年11月現在

#### 渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成25年11月25日現在)

##### 渡船場前発(能古学校前まで約2分)

時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
平日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
土曜日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	
日・祝日	57	48	45	30	30	55	35	35	35	45	00

##### アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
平日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
土曜日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	
日・祝日	23	20	3	13	28	18	18	18	18	28	38

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



公益財団法人 亀岡文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881  
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp